

2025年3月期 Q2 決算を発表

新たに総額 99 百万米ドルにのぼる MoU 及び iPSA を締結
ミッション 2 打ち上げは最速 2025 年 1 月へ

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は、11月12日（火）に2025年3月期 Q2 決算発表を行いました。また同日、スペース X との調整に伴い、ミッション 2 の打ち上げは最速 2025 年 1 月となる旨を合わせて発表いたしました。なお当社の RESILIENCE ランダーの開発進捗は順調であり、予定通り、近日中に打上げ場のあるフロリダへ輸送予定となっております。

詳細は当社 IR サイトより、本日発表の 2025 年 3 月期第 2 四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）資料をご参照下さい。また同サイトにて、Q2 決算説明資料・決算説明会録画・決算説明会書き起こしも順次開示いたします。

当社 IR サイト：<https://ir.ispace-inc.com/jpn/news/>

1. 経営成績

- 売上高：1,342 百万円

2025 年 3 月期第 2 四半期（累計期間）の売上高は、前年同期比で同水準となりますが、前期に発生したミッション 1 完了に伴う一時的な売上増（575 百万円）を除いたベースでは、前年同期比+77.8%となります。主にミッション 3 からの売上が前年同期比+148.0%と大幅に増加したことが寄与しています。

- 営業損益：△3,734 百万円

前年同期比では、今期は上述の売上一括計上に相応する粗利益の計上がないこと、およびミッション 3 の開発進捗加速に伴い販売管理費が前年同期比で増加したことにより、営業損失が前年同期比で拡大しました。

- 当期純損益：△6,391 百万円

前年同期比では、前期に特別利益として計上した月保険（3,793 百万円）が今期はないことに加え、以下の影響により、当期純損失が前年同期比で拡大しました。

- 為替差損の計上（1,364 百万円）
- 一部資産における使用方法の変更に伴う特別損失の計上（596 百万円）
- 借入金の支払利息の計上（422 百万円）

	2025年3月期	2024年3月期（前期）		2025年3月期（予想）	
	Q2累計	Q2累計	増減率	通期予想	進捗率
（単位：百万円）					
売上高 ⁽⁴⁾	1,342	1,330	+0.9%	4,033	33.3%
売上総利益	204	686	△70.2%	522	39.2%
売上総利益率	15.3%	51.6%	-	12.9%	-
販売管理費	3,938	2,727	+44.4%	13,688	28.8%
営業損益	△3,734	△2,041	-	△13,165	-
経常損益	△5,790	△2,257	-	△12,461	-
当期純損益	△6,391	1,537	-	△12,465	-

2025年3月期 Q2 決算説明資料より

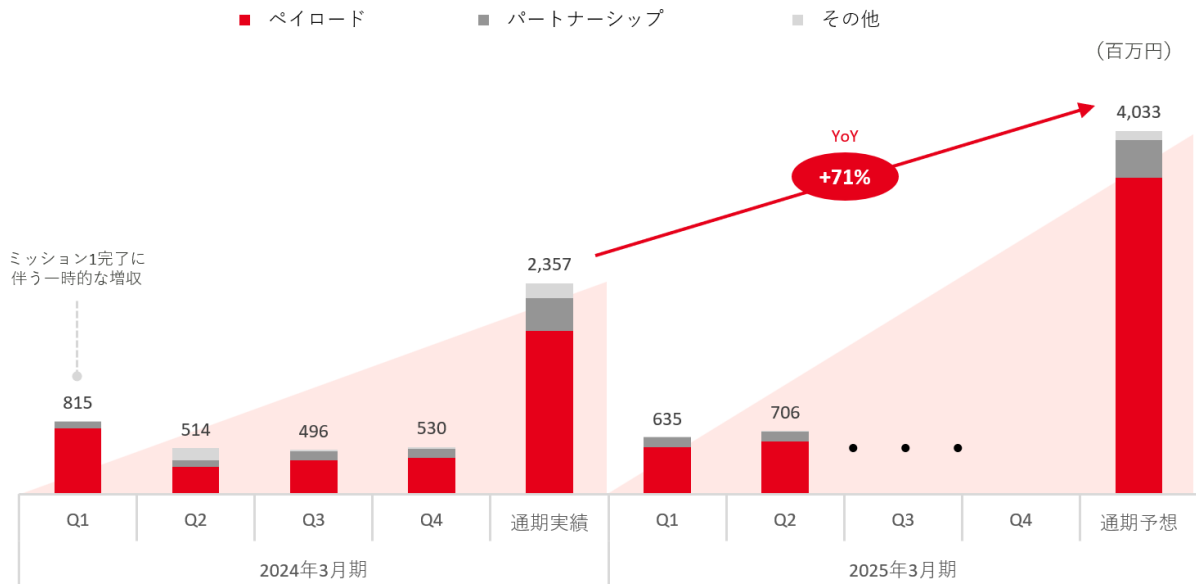
- 研究開発費：2,203 百万円
R&D（研究開発）の位置づけである日本のミッション2の開発費が前年同期比で増加したことに加え、商業ミッションの位置づけである、米国のミッション3および日本のミッション6 関連費用の一部が研究開発費として計上された分も増加しました。
- 給与及び手当：772 百万円
グループ全体で従業員が前年同期比で74名増加（主に米国法人）した影響により、前年同期比で給与及び手当が増加したことにより増加しました。

	2025年3月期	2024年3月期（前年度）	
	Q2累計	Q2累計	増減率
（単位：百万円）			
研究開発費	2,203	1,637	+34.6%
給料及び手当	772	430	+79.2%
その他	963	659	+46.2%
販売管理費の合計	3,938	2,727	+44.4%

2025年3月期 Q2 決算説明資料より

2. サービス別売上推移予想

今期の通期売上目標は引き続き 40 億円とし、主にミッション 3 によるペイロード売上の下期拡大を目指します。



2025年3月期 Q2 決算説明資料より

■ 株式会社 ispace 取締役 CFO 事業統括エグゼクティブ 野崎 順平コメント

「前年度に比べ、ミッション 3 のペイロード売り上げの堅調な進捗を反映した決算内容となりました。今般、総額\$99MM にのぼる MoU および iPSA を、グローバルな宇宙庁や政府機関、企業と締結いたしました。当社事業は今後、潜在顧客の需要検討から契約を具体化させていくフェーズに移行してきています。ミッション 2 がいよいよ始まる今冬、宇宙事業へのさらなる興味関心の喚起を図るとともに、シスルナ経済圏の構築に向けて、このたび発表させていただいたパートナー企業様に加えて、思いを同じくする社員一同、取り組んでまいります。」

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 の打ち上げは最速 2025 年 1 月ⁱに、ミッション 3 は 2026 年ⁱⁱ、ミッション 6 は 2027 年にⁱⁱⁱ打ち上げを行う予定。

ミッション1の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション1マイルストーンの10段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション1で得られたデータやノウハウは、後続するミッション2へフィードバックされる予定。更にミッション3では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によってNASAが行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

i 2024年11月時点の想定

ii 2024年11月時点の想定

iii 2024年11月時点の想定